

HIO YOG

教区新報

浄土真宗本願寺派 兵庫教区教務所
〒650 神戸市中央区下山手通8丁目1番1号
(本願寺神戸別院内)
電話 神戸(078)341-5949(代)
〔編集〕教区基推委広報部

1993. 12. 74号

去る十一月十八日(二十日)にかけて、即如門主が氷上西組・播磨中組をご巡教され、氷上西組では正覚寺(藤長正博住職)で式典・法座など、西光寺(中尾教雄住職)・教泉寺(坂本寛行

「本当の暖かさ」と厳しさを

ご門主氷上西組・播磨中組をご巡教

ご親教では「阿弥陀如来はどんな時でも私を見捨てることなく、支え見守っていただくさりと真実の世界であるお浄土へと導いてくださいます。阿弥陀如来から見て、この世に生まれない

す。南無阿弥陀仏が、いのちのまことのよりどころとなつてくださるからこそ、自分の人生に責任を持って生き抜く道が開かれます。親鸞聖人は信心を得た者を真の仏弟子と名づけられ身も心も柔軟になり仏さまからは親友と呼ばれると教えてくださいました。それは本当の暖かさ、厳しさを身につける、ということではないでしょうか。如来さまから呼ばれる者は、如来さまに應える者となりま



門徒のたが退院の挨拶においでになった時の話です。◆「私は看護婦さんに後になつてから聞いたのですが、手術室へ運ばれる廊下で大きな声で何回もお念仏を唱えたそうです。病気が重かったから覚悟はしていたので、無意識のうちにお念仏がでたのかも知れません。回復して自宅に帰ると、何とも思っていないなかつたわが家が、近所の人たちの声かけが暖かく新鮮で、これまでと異なつた世界に帰ってきたよ

両組とも法座Aでは、教書のおこころをどういただくか、基幹運動推進上の問題点、教化団体の活動と連研について、とほほ共通のテーマで話し合われたが、氷上西組では過疎化による門徒数の減少や、それに伴う寺院維持の問題、無住寺院を多く抱えた組で連携を保とうとする上での困難について、播磨中組では、兼職住職が多くしかも組の範囲が広いなど教化活動の難しさや、若者の寺離れ、青少年教化などが中心となつた。

(二面へ続く)

教区だより 12・1月		
14日(火)~16日(木)	別院常例法座 和田智浄師	1時半
16日(木)	青年僧侶の会役員会 仏婦常任委員会	姫路 10時
17日(金)	門徒総代会評議員会 矯正教化連盟兵庫支部研修会	10時半 4時
18日(土)	年忘れヤング広場	神戸湊組 尊光寺
20日(月)	連研検討部会	3時
21日(火)	企画推進室会	3時
22日(水)~23日(木)	スカウト仏教章取得講習会	網干組 政源寺
25日(土)	年末組長会	2時
28日(火)	別院・教務所御用納め	
1月1日(土)	別院修正会	7時半
8日(土)	別院・教務所御用始め	
9日(日)	永代経開闢法要	大谷本廟
14日(金)~16日(日)	別院常例法座 山崎一朗師	1時半
20日(木)	別院仏婦報恩講	1時半



神戸市中央区加納町6-3-1 ☎078-393-5949

本願寺神戸別院改築・兵庫教区教化センター設立、建設工事の進捗状況と今後の予定についてお知らせいたします。

現況
11/8~9日
・仮事務所へ移転
14日
・仮本堂入佛法要
24日
・近隣自治会説明会：近隣自治会からの要望書に対する回答書について説明

予定
12/2~10日ごろ
・近隣家屋調査
9日
・モダン寺の夕べ：近隣住民と別院門信徒を対象に、お別れの行事を開催
13~28日ごろ
・庫裏内装、上家解体と本堂内装解体
1/6ごろから
・本堂躯体解体
建設費志進納総額 七億四千四百九十四万六千二百元 (93年10月31日現在)

敬弔

萩原猛雄師(はぎわら・たけお)姫路西組本誓寺前住職)十一月十一日、九十五才で往生。葬儀は十一月十三日、本誓寺で。「本覚院釋猛雄」。

昭和三年から同四十二年まで住職在職四十年。この間、昭和十二年から副組長二期、同二十八年から同じく副組長を務めた。

江尻温子さん(えじり・はるこ)姫路中組善養寺前坊守)十一月十七日、九十四才で往生。葬儀は十一月十九日、善養寺で。「秀善院釋尼温壽」。

同朋運動の推進を目的とするもので未発表のもの。原則として二十字以内。

◇締め切りは一月三十一日、教務所近同推事務局へ郵送ください。採用作品には記念品を贈呈いたします。尚、採用作品で語句の訂正をさせていただきますので、ご了承願います。

小寺ハルコさん(こでら・はるこ)揖龍西組浄教寺前坊守)十一月二十日、九十才で往生。葬儀は十一月二十二日、浄教寺で。「浄久院釋尼華春」。

藤原和さん(ふじわら・かず)氷上東組永證寺前坊守)十一月二十日、八十一才で往生。葬儀は十一月二十二日、永證寺で。「寶教院釋尼妙順」。

石井くに子さん(いし・くに)神戸西組蓮生寺前坊守)十一月二十二日、八十五才で往生。葬儀は十一月二十五日、蓮生寺で。「精進院釋尼妙宣」。

同朋運動の標語を募集

近畿六教区で構成している近畿同朋運動推進協議会では、毎年同朋運動啓発のために、同和教育振興会と共同で二種類のポスターを作成、配布しています。今年も標語を広く募集しますので、ふるってご応募ください。

◇同朋運動の推進を目的とするもので未発表のもの。原則として二十字以内。

◇締め切りは一月三十一日、教務所近同推事務局へ郵送ください。採用作品には記念品を贈呈いたします。尚、採用作品で語句の訂正をさせていただきますので、ご了承願います。

厳しい門徒数減少

組巡教
で提起

組画変更後を問う

播磨中

氷上西組では「すべてのことにきびしさがある。過疎化する農村地帯で門徒数の減少が目立っている」という寺院をとりまく状況のなかで、住職がたからは次のような意見が出された。

- ・門徒戸数については昭和二十七年頃の調査数だと聞いたが今ではすっかり変わってしまった。過疎地の現状を考えると、門徒の減少は避けられない。
- ・門徒戸数については不信感がある。増えたところが申告をしていないのではなか。
- ・わが門徒という枠を超えて、教区ぐるみ、教団ぐるみで考えていく必要がある。講師の廣川智道師は「環境としては厳しい状況にある」とも

最後に「組の事情を踏まえて、よく戸数を把握して懇志依頼をしてほしい。」

と述べている。この「懇志依頼を契機として方策を見つけてほしい」と述べ、随行長の九折舜壽総務は「み教えに生きるよろこびを次の世代に伝えていかなければならない責任がある。お盆・お彼岸など里帰りのまたとない機会をとらえて、つながりを持ってください」とまとめた。



法座Bでは「寺と門徒の信頼関係を深めることが第一。教化団体合同での研修会が欠けているのではないか」「三世代同居の家も多い。お仏壇に毎日手を合わせず家も多々うれしいこと。新興宗教に走っていくような人にも伝えていただきたい」「などの意見が出され、ご門主は「当地を離れて生活している人の次代ではお寺はどこだったか？ということになる。個人的なつながりを通してご縁を持っていたらいい」と述べられた。



播磨中組の法座Aでは、青少年教化ができない理由に、法務に手いっぱい・方法がわからない・青少年の意識が理解できない・新しい方法を広げようとするのが難しいと述べられた。連研は組画変更後、広範囲になり困難になったり、門徒推進員が増えない点について、また、組画変更後も法務のつきあいには変わらないことの問題点を提起した。

問題、仏婦・仏士の助成についての意見、また、住職と門徒とのつながりがうすくなったという声など。

靖国問題についても「千鳥ヶ淵の法要は良いことだと思いが、靖国神社参拝反対がなぜ言われるのか。いのちを大切にとは当然のことだと思いが、戦地で生き長らえた者にとって、もうひとつ心の奥で納得できない」という意見もあった。

これについて廣川師は、「閣僚の公式参拝は憲法で禁止されている事項。特定の宗教への財的支援も政教分離で禁止されているという法律上のことがある。戦死者を英霊とたたえ、戦争を賛美するがごとき行為は真実のいのちの尊さということから考えてあつてはならないこと。神道の施設では神道以外の追悼はできない」と述べ、再び戦争でのちを失うことを繰り返してはならないことを強調した。

尚、即如門主組巡教は播磨中組で三百六十四組目であった。

HO日誌

一大事は今の問題

◆10月27日 神戸湊組住職 寺族同朋講座を尊光寺で。講師は松島法城師(多紀組 専福寺) ◆28日 近畿教誨師研修大会を舞子ビラで ◆31日 津村別院で近畿ブロック保育大学講座 ◆31日 スカウトクラブ役員会。

◆11月1日 企画推進室会議。本年度僧侶研修については私の問題として話し合うことの難しさが指摘された。来年度からの方向性については、従来の組住職・寺族同朋講座をどう位置づけるか、教区として僧侶の集まる場、情報交換の場が必要ではないかなどの意見をもとに各組での研修を教区で総括する方向が出された。「全戦没者五十年追悼法要」厳修については常任委員会検討することになった。終了後懇親会・布教使研修会の打ち合わせ ◆2日 兵庫推進部会。第六回教区ビハラ研修会。ビハラ兵庫研修会、神崎町「うぐいす荘」での実践活動などについて ◆3日 本山での全国仏壯大会に教区から四百一人が参加。今

年五月に全国仏教壮年会議会長に就任した中尾勝氏(氷上西組照徳寺門徒)が「全国各地から同信の同朋があい集い、お念仏申すこととに大いに意義深さを感じます。仏教壮年会が全国各地で結成され二十年の経過を見ました。今、基幹運動の中核的役割としての活動を省みる時、今一度原点にかえり、足もとを見つめ、問いただすことが肝要だと思います」とあいさつ ◆6日 第一土曜仏教講座。講師は鍋島直樹師(龍谷大学講師) テーマは「愛と慈悲について」 ◆7日 永代経開闢法要を大谷本廟で ◆別院 仏婦定例法座。講師は近藤龍樹師(加古川組普光寺) ◆神明組金堂寺仏教婦人会の再建四十五周年記念大会に教務所長・担当者出席。会員・賛助会員物故者追悼法要や初参式も行われた。昭和二十四年に再建された同寺仏婦は現在、約二百人の会員で活動が行われている ◆8日 門徒推進員役員会 ◆8日 9日 別院・教務所仮事務所へ引越。十人ほどの業者の人の動き

に感心しながらせかされる職員でした ◆9日 10日 第三ブロッコ布教使研修会をタワーサイドホテルで。基幹運動研修のほか「蓮如上人に学ぶ」と題して、勸学・稲城選恵師が「争うことをきらった」という上人のバックボーンや、子育て最中の尼や庶民を対象とした布教、後生の一大事は決して明日でない今の問題(今が臨終)であるなど、蓮如上人の生涯とその教えについて講義した。二日目は会場を加古川の天台宗教信寺に移して、同寺の長谷川慶明師が「沙弥教信の生涯と思想」と題して講演 ◆11日 長島愛生園、邑久光



別院仮本堂で勤まった報恩講 (11/27~29)

明園の報恩講に教務所長と岡山南組の法中がたが出勤。講師は杉本昭典師(北撰組 光澤寺) 田中英明師(神戸湊組光明寺) 田中師は「お参りが多く熱心に聴聞されました。会長さんを中心に行事の計画など皆さんがまとまってされているようすが伝わってきました」と話していた ◆別院のお掛軸、仏具などを仮事務所(仮本堂)に移転し、お莊厳を整えた ◆13日 江並教堂報恩講に教務所長、教堂参勤の井上法順師と岡山南組の法中がたが出勤 ◆14日 別院仮本堂入仏法要。無量寿経作法をお勤めし、引き続き常例布教が行われた ◆14日 16日 別院常例法座。講師は増井浄見師(赤穂北組浄蓮寺)。「初めての場所なので、入り口がわかりにくくてぐるぐる回ってしまいました」というお同行の声でした ◆18日 20日 氷上西組・播磨中組で組巡教(別記) ◆24日 門徒推進員会報編集委員会 ◆建設工事についての近隣自治会説明会。解体工事、地下掘削による湧水や雨水排水への影響、車両の出入りなどについて近隣自治会からの要望に対する回答書について戸田建設、中村建築設計事務所、別院から説明が行われた ◆26日 別院報恩講について職員打ち合わせ ◆27日 29日 別院報恩講。今年仮本堂でのお勤めとなるため、例年の団参、出勤依頼は見合わせ、職員が出勤して入りで法要をお勤めした。今までより遠くになった仮本堂へもいつも通り毎座欠かさずお参りされるお同行の姿に頭の下がる思いでした。講師の森田智師(播磨東組妙覚寺)は「信心はあれかこれかと探すのではなく、名号をそのままいただくことです」と質問を通してわかりやすくお話しされました。ご満座では土基輪番が「ご不便をおかけしますがこのような仮本堂の場で宗祖のご苦勞を偲ばせていただくのも、また意味のあることではないでしょうか。今年の報恩講を無事お勤めすることができました。ありがとうございます」とあいさつ ◆29日 大阪教区寺婦連盟結成三十周年記念大会に、教区寺婦連盟から辻岡武子委員長出席。

仮本堂での報恩講

◆10月27日 神戸湊組住職 寺族同朋講座を尊光寺で。講師は松島法城師(多紀組 専福寺) ◆28日 近畿教誨師研修大会を舞子ビラで ◆31日 津村別院で近畿ブロック保育大学講座 ◆31日 スカウトクラブ役員会。

◆11月1日 企画推進室会議。本年度僧侶研修については私の問題として話し合うことの難しさが指摘された。来年度からの方向性については、従来の組住職・寺族同朋講座をどう位置づけるか、教区として僧侶の集まる場、情報交換の場が必要ではないかなどの意見をもとに各組での研修を教区で総括する方向が出された。「全戦没者五十年追悼法要」厳修については常任委員会検討することになった。終了後懇親会・布教使研修会の打ち合わせ ◆2日 兵庫推進部会。第六回教区ビハラ研修会。ビハラ兵庫研修会、神崎町「うぐいす荘」での実践活動などについて ◆3日 本山での全国仏壯大会に教区から四百一人が参加。今

に感心しながらせかされる職員でした ◆9日 10日 第三ブロッコ布教使研修会をタワーサイドホテルで。基幹運動研修のほか「蓮如上人に学ぶ」と題して、勸学・稲城選恵師が「争うことをきらった」という上人のバックボーンや、子育て最中の尼や庶民を対象とした布教、後生の一大事は決して明日でない今の問題(今が臨終)であるなど、蓮如上人の生涯とその教えについて講義した。二日目は会場を加古川の天台宗教信寺に移して、同寺の長谷川慶明師が「沙弥教信の生涯と思想」と題して講演 ◆11日 長島愛生園、邑久光